

ジュエリー文化史研究会からのお知らせ - 13 -

2013.6.20

展覧会情報 - 貴婦人と一角獣展

露木宏

フランス国立クリュニー中世美術館所蔵の6面タピスリーや
関連の品々が展示されています。

- 7月15日まで、国立新美術館（最寄駅：乃木坂）

<http://www.lady-unicorn.jp/>

ジュエリーの視点から見ても大変興味深く、15世紀末～16世紀初頭に、
いかに真珠が、あこがれの宝石として珍重されていたかが
このタピスリーを見ると実感できます。

当時のジュエリーも、数は多くありませんが出品されています。

この頃、貴族女性の間で流行していた豪華なベルトや、

その他いくつかの指輪もありました。

ケシ粒ほどの極小のダイヤ原石を用いた指輪もありましたが、

あまりに小さすぎてよく見えませんでした。

拡大鏡のようなものを持っていくといいでしょう。

私は日曜日に行きましたが、それほど混んでなく、並ばずに入れました。

なお、タピスリーの謎めいた図柄を読み解くには、

芸術新潮5月特集号(貴婦人と一角獣に秘められた恋)の木俣元一氏の

論考が参考になります。これはミュージアムショップで売っています。

ジュエリー文化史研究会

<http://www.j-bunka.jp/>

このメールアドレス(j-bunka@jj-craft.com)には返信できません。

返信の必要のある方は、以下のアドレスにメールを送ってください。

日本宝飾クラフト学院 info@jj-craft.com

幹事戸倉博之 spina@precious-chroma.com